

## 4. 史学科

史学科は、文字資料ならびに考古資料・文化遺産・文化景観などの非文字物質資料を駆使して過去の人間社会・文化とその歴史を明らかにし、歴史遺産の継承と活用を通じた社会と文化の豊かな創造を追究するとともに、研究・分析の過程で修養される「歴史的思考」を身につけた、社会に有用な人材を育成することを目的とする。

史学科には「日本史学」「外国史学」「考古学」「地域文化と景観」の4つのコースがあり、それぞれのコースによって専門教育科目の履修方法が異なる。史学科の専門教育の基幹となる3・4年次の演習は、きめ細かい指導を徹底するため定員制をとる。また各コースには、将来の進路設計によって Standard Career Program (S-プログラム) と Professional Career Program (P-プログラム) が用意されており、プログラムごとに履修すべき科目が異なっている。学生は、自分の興味・関心に従っていずれかのコースを選択し、かつ将来どのような職業に就きたいかという観点からどちらかのプログラムを選択し、履修規程に基づいて単位を修得しなければならない。

また、さまざまな言語で書かれた史料や論文の読解に加え、国際的な発信力とコミュニケーション能力を修養することが、これからの史学科学生にとって必須の資質になるとの教学方針から、選択必修科目として第二外国語を課している。

### 【史学科の4コース】

#### 日本史学コース

日本の古代から近現代に至る各時代の史実とその意義を、厳密な史料批判に基づいて研究し、それぞれの時代における政治・社会構造や文化の歴史的特質などを明らかにするための知識や方法論を身につける。

#### 外国史学コース

朝鮮半島から北アフリカ（イスラム時代以後）までの各地域（いわゆる東洋）と、ヨーロッパからアメリカまでの各地域（いわゆる西洋）の歴史を研究対象とし、語学の修得を基礎としてその政治・社会構造や文化の歴史的特質などを明らかにするための知識や方法論を身につける。

#### 考古学コース

考古学の方法論や発掘調査法などの実践的な知識・技術を学び、遺跡や出土遺物などの物質資料から過去の人類文化とその歴史を読み解くための視座と方法を身につける。なお所定の単位を修得することにより、考古調査士資格認定機構による「考古調査士2級」資格を取得できる。

#### 地域文化と景観コース

歴史の痕跡を深く刻み込んだ文化財や絵図・古地図、地名や景観、地域の信仰や芸能などの調査・分析を通じて、風土と歴史の中で培われてきた地域固有の文化を多面的に究明し、地域文化を将来に継承してゆくための知識と方法論を身につける。

### 【2つのプログラム】

ここでいうプログラムとは、上記の4コースとは別に、将来どのような職業に就きたいかという観点から学生自身が選択するカリキュラム群で、両プログラムは卒業に必要な科目に相違はあるものの、両者の間に優劣や難易の別はなく、演習などの授業も両プログラム合同で行われ、いずれも卒業論文が課される。

#### Standard Career Program (S-プログラム)

特定の時代や地域にとらわれず、歴史学を幅広く学んで人生に活かし、将来は公務員や一般企業への就職を考えている学生のためのカリキュラム群で、歴史学の専門科目のほかに、社会人の素養となる語学や社会科学系科目（法学、経済学など）を数多く履修するプログラムとなっている。このプログラムでも、教員免許・学芸員資格などの取得は可能である。

#### Professional Career Program (P-プログラム)

大学院への進学、もしくは教職・学芸員など専門職を目指している学生のためのカリキュラム群で、幅広くしっかりと歴史の専門知識を修得できるよう、専門科目の必修科目と選択必修科目から52単位以上を履修することになっている。このプログラムでは、教員免許または学芸員資格の取得を学生に推奨しており、それに適したカリキュラムが組まれている。

## 【コースとプログラムの選択】

### コースの選択

コースの選択は、3年次の前期履修登録時に K-SMAPY にて行う。それ以降に変更の希望があった場合は、教務委員及び指導教員との面接によって決定する。コースの最終的な決定は 4 年次の前期履修登録時となる。なお、卒業論文の作成上、3 年次と 4 年次のコースは同一が望ましい。

### プログラムの選択

プログラムの選択は、2 年次の前期履修登録時に行い、原則として 3 年次の前期履修登録時のみ変更可能である。なお、プログラムの選択及び変更手続きは、3 年次の前期履修登録時までは K-SMAPY、それ以降に変更を希望する場合は、教務委員及び指導教員との面接によって決定する。

## 【カリキュラムの構成と履修方法】

### 必修科目 28 単位

史学科共通の必修科目群で、「史学入門Ⅰ・Ⅱ」「史学導入演習」「史学基礎演習 A・B・C」「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」「史学応用演習」「演習・卒業論文」がこれに該当する。なお、「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」と「史学応用演習」は、卒業論文の作成上、同一教員による指導が望ましい。

また「史学基礎演習 A・B・C」「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」「史学応用演習」は、シラバスの「授業のテーマ」で示される内容が異なる場合には、教員の許可を得て複数受講することができる（超過単位は選択科目Ⅰ類へ算入）。

### 選択必修科目 S-プログラムは 16 単位以上、P-プログラムは 24 単位以上

史学科の学修にとって基本となる選択必修科目群である。「概論」科目から自分のコースの 2 科目 4 単位を含め 4 科目 8 単位以上、「コース」科目から S-プログラムは各コースから 2 単位ずつ修得し合計 8 単位以上、P-プログラムは自身の選択しているコースから 12 単位を含み 16 単位以上を修得しなければならない。

### 選択科目 S-プログラム 20 単位以上、P-プログラム 12 単位以上

自由に選択できる選択科目群で、Ⅰ類・Ⅱ類の 2 つのカテゴリーからなる。Ⅰ類は史学科の専門科目、Ⅱ類は史学科以外の専門科目である。ただし、S-プログラムはⅡ類から 12 単位以上を修得しなければならない。

## 【定員制の演習（ゼミ）】

3 年次の史学展開演習Ⅰ・Ⅱ、4 年次の「史学応用演習」は、演習発表や卒業論文中間発表など学生自身による研究発表と討論を中心に進められ、履修者数が極端に多くなると授業が成り立たないため、各ゼミ 20 人程度の定員制とする。「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」は 2 年次の後期に開くガイダンスで事前登録を行う。

## 【考古調査士資格について】

考古調査士資格とは、遺跡発掘調査にあたる調査士の資格で、全国の大学・研究機関共通の統一的な資格審査機構である「考古調査士資格認定機構」が授与する。本学は同機構に加盟しており、所定の科目を履修し単位修得した学生は、考古調査士資格（2 級）を申請・取得できる。

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				考古調査士※		履修方法	備考	
				1	2	3	4	科目群	区分			
必修科目	史学入門Ⅰ	半期	2	○						28単位必修		
	史学入門Ⅱ	半期	2	○								
	史学導入演習	半期	2	○								
	史学基礎演習A	半期	2	○								
	史学基礎演習B	半期	2	○								
	史学基礎演習C	半期	2	○								
	史学展開演習Ⅰ	半期	2			○		Ⅱ	必修		原則として同一指導教員の授業を履修すること	
	史学展開演習Ⅱ	半期	2			○		Ⅱ	必修			
	史学応用演習	通年	4				○					
演習・卒業論文	通年	8				○						
概論科目	日本史概論Ⅰ	半期	2	○						日本史学コース選択者は、「日本史概論Ⅰ・Ⅱ」 外国史学コース選択者は、「東洋史概論Ⅰ・Ⅱ」または「西洋史概論Ⅰ・Ⅱ」 考古学コース選択者は、「考古学概論Ⅰ・Ⅱ」 地域文化と景観コース選択者は、「地域文化と景観概論Ⅰ・Ⅱ」 以上の各4単位を含め、計8単位以上選択必修 超過単位は選択科目Ⅰ類へ算入		
	日本史概論Ⅱ	半期	2	○								
	東洋史概論Ⅰ	半期	2	○								
	東洋史概論Ⅱ	半期	2	○								
	西洋史概論Ⅰ	半期	2	○								
	西洋史概論Ⅱ	半期	2	○								
	考古学概論Ⅰ	半期	2	○				Ⅰ	選択			
	考古学概論Ⅱ	半期	2	○								
	地域文化と景観概論Ⅰ	半期	2	○								
	地域文化と景観概論Ⅱ	半期	2	○								
選択必修科目	日本史学コース	日本時代史Ⅰ	半期	2	○					S-プログラム選択者は、各コースの中から2単位を含め、計8単位以上選択必修 P-プログラム選択者は、選択したコースの中から12単位を含め、計16単位以上選択必修 超過単位は選択科目Ⅰ類へ算入		
		日本時代史Ⅱ	半期	2	○							
		日本時代史Ⅲ	半期	2	○							
		日本時代史Ⅳ	半期	2	○							
		日本時代史Ⅴ	半期	2	○							
		日本時代史Ⅵ	半期	2	○							
		日本時代史Ⅶ	半期	2	○							
		日本時代史Ⅷ	半期	2	○							
	史料講読	通年	4		○							
	外国史学コース	東洋地域史Ⅰ	半期	2	○							
		東洋地域史Ⅱ	半期	2	○							
		東洋地域史Ⅲ	半期	2	○							
		東洋地域史Ⅳ	半期	2	○							
		西洋地域史Ⅰ	半期	2	○							
		西洋地域史Ⅱ	半期	2	○							
		西洋地域史Ⅲ	半期	2	○							
		西洋地域史Ⅳ	半期	2	○							
	外書講読	通年	4		○							
	考古学コース	考古学各論Ⅰ	半期	2	○				Ⅲ		選択	
		考古学各論Ⅱ	半期	2	○							
考古学各論Ⅲ		半期	2	○				Ⅲ	選択			
考古学各論Ⅳ		半期	2	○								
考古学各論Ⅴ		半期	2	○				Ⅲ	選択			
考古学各論Ⅵ		半期	2	○								
考古学調査法		通年	4		○			Ⅳ	必修			
地域文化と景観コース	地域文化各論Ⅰ	半期	2	○								
	地域文化各論Ⅱ	半期	2	○								
	地域文化各論Ⅲ	半期	2	○								
	地域文化各論Ⅳ	半期	2	○								
	文化景観各論Ⅰ	半期	2	○								
文化景観各論Ⅱ	半期	2	○									
地域・景観調査法	通年	4		○								

(次ページに続く)

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				考古調査士※		履修方法	備考
				1	2	3	4	科目群	区分		
選択科目 I類	江戸東京の歴史	半期	2	○						S-プログラム選択者は、 II類の中から12単位を含め、 I類・II類で計20単位以上  P-プログラム選択者は I類・II類で計12単位以上	シラバスの内容が異なれば同一の授業科目でも複数履修可
	渋谷の歴史	半期	2	○							
	有職故実 I	半期	2		○						
	有職故実 II	半期	2		○						
	史学情報処理 初級	半期	2	○							
	史学情報処理 中級	半期	2		○						
	史学情報処理 上級	半期	2		○						
	古文書学 I	半期	2		○						
	古文書学 II	半期	2		○						
	史料管理・保存論 I	半期	2		○						
	史料管理・保存論 II	半期	2		○						
	文化財行政論	半期	2		○			V	選択		
	考古科学	半期	2		○			VI	選択		
	文化財科学	半期	2		○						
	地域文化資源論	半期	2		○						
	地域文化財資料論	半期	2		○						
	絵図古地図研究	半期	2		○						
	環境史・災害史	半期	2		○						
	日本文化史 I	半期	2		○						
	日本文化史 II	半期	2		○						
	美術工芸史	半期	2		○						
	歴史考古学 I	半期	2		○			III	選択		
	歴史考古学 II	半期	2		○						
	外国考古学 I	半期	2		○						
	外国考古学 II	半期	2		○						
	文化人類学 I	半期	2		○						
	文化人類学 II	半期	2		○						
	人文地理学	半期	2		○						
	自然地理学	半期	2		○						
	地誌学	半期	2		○						
日本史特殊講義	半期	2			○						
東洋史特殊講義	半期	2			○						
西洋史特殊講義	半期	2			○						
考古学特殊講義	半期	2			○						
地域文化と景観特殊講義	半期	2			○						

(次ページに続く)

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				考古調査士※		履修方法	備考	
				1	2	3	4	科目群	区分			
選択 科目 Ⅱ 類	倫理学A	半期	2	○						S-プログラム選択者は、 Ⅱ類の中から12単位を含め、 Ⅰ類・Ⅱ類で計20単位以上  P-プログラム選択者は Ⅰ類・Ⅱ類で計12単位以上		
	倫理学B	半期	2	○								
	哲学概論A	半期	2			○						
	哲学概論B	半期	2			○						
	宗教学Ⅰ	半期	2	○								
	宗教学Ⅱ	半期	2	○								
	国際法の基礎	半期	2		○							
	国際政治A	半期	2		○							
	国際政治B	半期	2		○							
	政治学概論	半期	2	○								
	社会学A	半期	2				○					
	社会学B	半期	2				○					
	心理学A	半期	2				○					
	心理学B	半期	2				○					
	世界の経済	前後	2	○								
	会社入門	前後	2	○								
	社会経済学入門	前後	2		○							
	社会保障の基礎	前後	2		○							
	財政の基礎	前後	2		○							
	金融の基礎	前後	2		○							
	地域と行財政	前後	2				○					
	地域と経済	前後	2				○					
	マーケティングの基礎	前後	2		○							
	国際経済	前後	2		○							
	憲法	通年	4		○							
	公共部門と財政	前後	2		○							
経済原論	前後	2		○								
民法Ⅰ	前後	2				○						
商法Ⅰ	前後	2				○						
少子高齢社会と社会保障	前後	2				○						

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※考古調査士資格2級（考古調査士資格認定機構公認）取得に必要な科目（「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」は考古学コース用に限定）

資格取得に必要な単位数：Ⅱ群2科目4単位、Ⅳ群1科目4単位、Ⅰ群・Ⅲ群・Ⅴ群・Ⅵ群の中から2科目4単位以上

考古調査士資格の詳細は、本学ホームページで確認してください。